

## 第三支部



第三支部理事 大野 哲治

寒気厳しきおりではございますが、皆さまますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

寒さと空気の乾燥が増すとともに COVID-19 の影響が大きくなり、皆さまの施設でも対応に苦慮されることが多くあると思います。また、旅行や会食なども制限され、大きなストレスを抱えている方もいるかもしれません。このような時節ではありますが、第三支部では、WEB という新しい形式での勉強会の開催を計画および準備をしています。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

### 【報告事項】

1. 第1回 第三支部役員会  
(ア)開催日時：2020年12月18日(金) 18時00分～  
(イ)開催場所：ZOOMを用いたWEB会議  
(ウ)内容：本年度の第三支部の活動に関して

### 【今後の予定】

第三支部では断腸の思いではありますが、COVID-19 対策として、以下のイベントの開催を中止とさせていただきます。

◎第三支部 新年会 (例年1月開催)

今後のイベントの開催に関しては、埼玉県診療放射線技師会の動向にのっとり行っていきます。また、中止とした勉強会に関して、WEB形式での開催の検討をしております。今後の活動に関する報告は第三支部のホームページにてお知らせしますので、お待ちください。

第三支部の活動の詳細は、ホームページ (<http://saitama3shibu.jimdo.com/>) をご覧ください。

第六支部

～Lock on～

埼玉県診療放射線技師会

第六支部

・巻頭言

巻頭言

非言語的コミュニケーションの必要性

丸山記念総合病院 野口裕輔

コロナに伴う新しい日常の実践が求められる中、人と人のコミュニケーションにさまざまな制約が加わった。その中で、マスクの着用により非言語的コミュニケーションが制限されることで円滑なコミュニケーションが妨げられることが挙げられる。

非言語的コミュニケーションとは話す、文字を書くといった言葉を使うコミュニケーション以外の意思伝達方法を指す。他者とコミュニケーションを図る上で、表情や顔色、声のトーン、話す速度、ボディランゲージ、視線などは、言葉以上に大きな役割を果たす。アメリカの心理学者アルバート・メラビアンによると、話し手が聞き手に与える影響のうち言葉の影響力はわずか7%にすぎず、視覚55%、聴覚38%と視覚、聴覚の影響力が大きい。言葉以外から得られる情報が重要である。

私自身、診療放射線技師として働き始め、多くの患者と接してきた。話し方や言葉選びを日々模索し、経験を積むにつれ、問題なくコミュニケーションが取れていると思っていた。しかし、最近では検査の注意事項の説明をした際に患者から「大丈夫」と返答があったが、実際には理解できていなかったことや、患者からの質問を聞き返す場面も多くなり、これまでは患者の表情や口元の動きから、理解できているか、何を質問しているのかを読み取り、判断していたのだと思った。

マスク着用は、飛沫や接触感染などの感染経路を断ち、その可能性を減少させるために必要不可欠な対策である。しかし、声が聞き取りにくい、相手の表情が読み取りづらい、こちらの感情が伝わりにくいなど、互いにマスクをしているからこそ、コミュニケーションのすれ違いが起りやすくなるとあらためて感じた。来院される患者など多くの人にとってこれほど長期間にわたるマスク越しのコミュニケーションは初めての経験といえる。まずは自分で思っている以上に、相手に感情が伝わりにくいことを認識する必要がある。口元ではなく、目元が笑顔になるよう意識し、相手の目をしっかり見てアイコンタクトをとるように留意する。また表情が伝わりにくい分、体を患者のほうにしっかりと向ける、身ぶり手ぶりを交えて話をするなどのボディランゲージを適宜とり入れていくなど、視覚的アプローチを活用すべきだと考える。

マスクによって非言語的コミュニケーションが制限されている今だからこそ、目線やボディランゲージをうまく取り入れて自分のものにし、円滑なコミュニケーションを図っていきたい。

巻頭言  
告  
示  
会  
告  
お知らせ  
第34回SART  
学術大会抄録集  
誌上講座  
第33回SART  
学術大会  
秀演  
賞題  
者優  
動本  
会  
き  
の  
掲各  
示支  
板部  
コ求  
ナ  
人  
議  
事  
録  
動会  
員  
向  
の  
役員  
名簿  
申F  
込A  
書X  
シ年  
コ間  
ス  
ルケ